

独自の文化を継承する 郷土の冬祭り、伝統芸能。

三遠南信 紀行 風土



三遠南信地域では、古くから、東海道や塩の道と呼ばれる南北の街道などを通じて、東三河、遠州、南信州との間で、人や物の交流が盛んに行われてきました。今に伝わる郷土の神事やまつりは、他地域の様々な文化が取り入れられ、やがて三遠南信地域独自の文化として、受け継がれています。各地に伝わる個性ある冬祭りや伝統芸能の数々をぜひ間近でご鑑賞、ご体験ください。



花祭り(奥三河各地)




飯田お練まつり 東野大獅子(飯田市)




秋葉神社火まつり(浜松市天竜区)


わたしたちは三遠南信地域連携ビジョンの推進に協力しています。



静岡文化芸術大学



豊橋技術科学大学



愛知大学
AICHI UNIVERSITY

三遠南信(さんえんなんしん)とは、愛知県東三河地域、静岡県遠州地域、長野県南信州地域の総称です。

1千年余の間、受け継がれてきた
遠州に根付く信仰と伝統芸能

遠州エリア

「秋葉参り」と呼ばれる秋葉山信仰は「伊勢参り」と並んで古くから多くの信仰を集めてきました。この季節には、秋葉山や可睡斎、奥山半僧坊方広寺などで「火まつり」が行われ、火難を払おうと裸足で神火を踏み切る「火渡り」が行われているところもあります。「田遊びまつり」は、五穀豊穡を祈願する神事で、小國神社や法多山などで、米づくりの過程を舞などで再現して行われます。また、田遊びまつりと同様のものに、「田楽」があります。「西浦田楽」、「寺野・川名のひよんどり」、「懐山のおくない」、「勝坂神楽」など北遠地域特有の伝統芸能となつていきます。一度は途絶え復活した「神沢のおくない」は、地元の中学生がふるさとの伝統を守っています。山名神社、小國神社、天宮神社で行われる森町の舞楽は、奈良時代から三百年の伝統を誇ります。この地域では、江戸時代から農村歌舞伎が盛んに行われ、現在も地元の保存会によって浦川歌舞伎や横尾歌舞伎、湖西歌舞伎が伝承されています。



寺野のひよんどり(浜松市北区)



湖西歌舞伎(湖西市)

山里に残る古式ゆかしい祭りと伝統芸能の数々
霜月神楽や華麗で勇壮な獅子舞で賑わう南信州

南信州エリア

山々が雪化粧する冬の訪れとともに、南信州の山や谷からは、心とむ笛や和太鼓の音、祭囃子が盛んに聞こえてきます。年の瀬の迫る12月から1月には、天龍村や阿南町新野、飯田の遠山郷で霜月祭りが催され、夜を徹して湯立て神楽が奉納されます。今田人形や黒田人形、早稲田人形芝居などの人形浄瑠璃は文化芸能を好むこの地域の風潮により今も演じられており、平谷・下條・大鹿村で大切に伝承されてきた村歌舞伎とともに、日本の伝統芸能として人々を魅了し続けています。春が近づくと五穀豊穡などを願って各地域で獅子舞が盛んに奉納されます。伊那谷の獅子舞の源流になったといわれる大島山瑠璃寺獅子舞など、幌を被せた屋台獅子が特長です。来年は7年に1度の諏訪神社の式年大祭の年(甲・寅年)に当たり、御柱祭(山出し)や里曳きなどが各地域で行われるほか、日本一大きいと言われる東野大獅子や大名行列が練り歩く飯田お練りまつりが開催されるなど、南信州は特別な春を迎えます。



大鹿歌舞伎(大鹿村)



新野の雪まつり(阿南町)

地域に息づく伝統行事に触れて先人の願いに思いを馳せる
「穂の国」ならではの豊作予祝行事や
奥三河の花祭りなど

東三河エリア

古くから「穂の国」と呼ばれ、実り豊かな東三河地域では、稲作にまつわる伝統行事が今日に受け継がれています。発足神社(小坂井町)では、旧正月7日に「田祭り」が行われ、田ならしから収穫までの農作業を歌や身振りで演じ、豊作を祈願します。このような予祝行事は、「田遊祭(砥鹿神社・豊川市)」にも見ることが出来ます。また、奥三河の各地区に鎌倉時代から伝わる「花祭り」では、五穀豊穡、無病息災を祈願し、湯を沸かしたかまどの周りで約40種類もの舞が夜を徹して行われます。クライマックスの「湯はやし」では舞子が煮え立つ湯をとる構わず振りかけますが、これを浴びると1年健康に暮らせると言い伝えられています。さらに、白狐らが子供を追い回し捕まえては紅ガラを体に塗りつける「どんき(長松寺・豊川市)」境内に集まった男衆が金の玉を奪い合う「おたがまつり(長仙寺・田原市)」赤鬼が町中を駆け回り道行く人にタンキリ鉛と粉を振りまく「鬼祭(安久美神戸・明社・豊橋市)」など、ユニークな祭りも行われています。



田原田楽(設楽町)



田祭り(小坂井町)